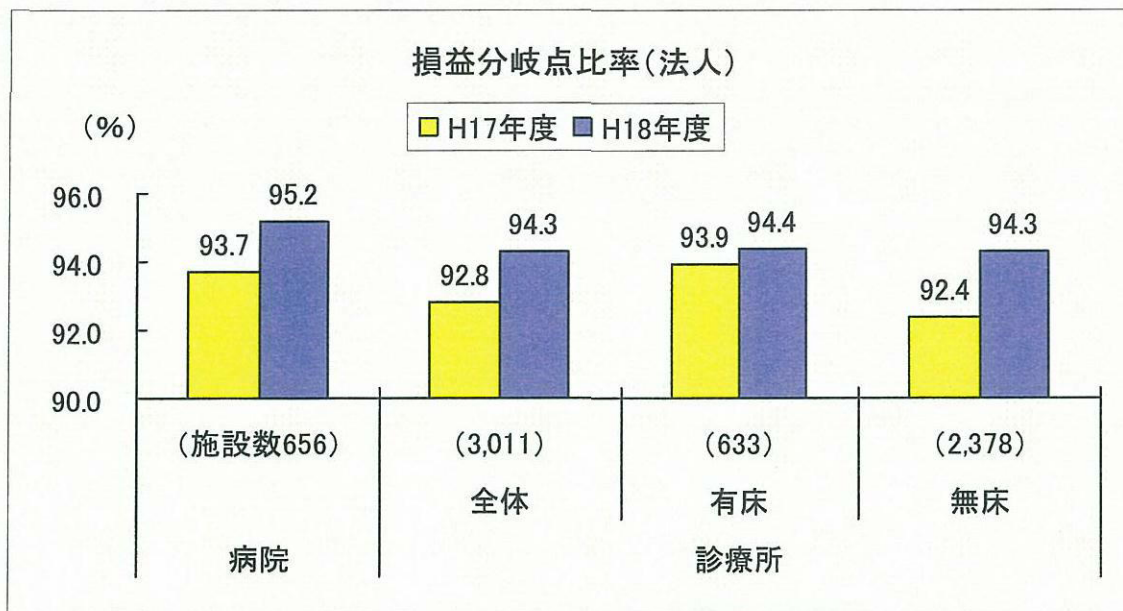


### (3) 損益分岐点比率

損益分岐点比率は、大幅に悪化し、病院で95%超、診療所で94%超となり、危険水域といわれる90%台に突入した。



#### 損益分岐点比率

- 90%以上 危険
- 80~90% 普通
- 70~80% やや優良
- 70%以下 優良

判定のしかたは様々である。たとえば80~90%を「注意」とするところもある。しかし、90%以上は「危険」という認識で一致している。

※損益分岐点比率は、 $\{ \text{固定費} \div (1 - \text{変動費率}) \} \div \text{売上高}$ で算出すべきであるが、ここでは簡易的に(給与費+減価償却費+経費)を固定費、材料費・委託費を変動費として算出。

**損益分岐点比率:**  
 90%の場合、収入が10%より多く減れば赤字になることを意味する。10%程度の環境変化は容易に起こりうるので、健全経営のためには90%未満であるべき指標。

\*TKC医業経営指標は、TKC全国会(会員数約9,500名の税理士、公認会計士のネットワーク)による編纂。第三者による信頼性の高いデータとして日本医師会が提供を受け、分析している。

## (4)「TKC医業経営指標」からのまとめ

- TKC医業経営指標は、民間医療機関の実態を表している。
- 民間医療機関は、病院、診療所ともに、健全経営という面からは、危険水域に突入しており、わずかな変化にも耐えられない。
- 病院・診療所ともに早急な手当てが必要である。

\*TKC医業経営指標は、TKC全国会(会員数約9,500名の税理士、公認会計士のネットワーク)による編纂。第三者による信頼性の高いデータとして日本医師会が提供を受け、分析している。